

2月1年を振り返り 未来へつなぐ

新型コロナウイルスの感染拡大が続き非常事態宣言が出される中、はや2月を迎えることとなりました。2月と言えば、子どもたちに3学期は一年間のまとめをしようといった通り、学校にとっても学校評価を行い、1年間の教育活動を見直し次年度へつなぐ大切な時となります。そこで、今年一年の本校の教育活動を振り返ってみることとします。

今年度は、コロナ禍のために、いまだかつてない対応を求められることとなりました。まさに、未知への挑戦だったのです。3月に第1回目の非常事態宣言の中、3カ月間の休校となりました。「家庭と学校をつなぐのは、ポスティングとホームページだ」と毎週のポスティングを行い「家庭学習を創れ」と家庭での学びの充実を図りました。ホームページで「おこるん&めっこりーなの学びの広場」を開設し、学習への意欲を高めようとなりました。休校開けは、分散登校。ほぼ夏休みもなく7月8月と熱中症と戦いながら、日傘で登下校をし、暑い夏と戦いました。運動不足を少しでも解消しようと朝の会にラジオ体操をも取り入れてみました。感染拡大防止のために、地域や保護者の方に学校に来ていただくこともできなくなりました。運動会・音楽会などの学校行事も束縛を受けることとなりました。しかし、その中でも、「ひろりんピック」や「ひろジック♪コンサート」など、新たな取組がうまれました。縦割り班で協力して競技したり、クラスで合奏に取り組みハー



日傘をさしての登下校



ひろジック♪コンサート

モニを創ったり、スマイル班やクラスの絆を深めるのに大きな成果をうみました。また、クラスで作った合奏や表現運動を動画で配信しました。PTAのみなさんにも協力してもらいました。受付をPTAにしてもらい検温や手指消毒をしておのオープンスクール。そして、雌岡山への広野っ子ウォークラリー。修学旅行や自然学校が日帰り2日しか実施できなかった子どもたちにとって大きな贈り物となりました。そして、昨年度「伝え合い 自ら学びを創る子の育成」をテーマに研究会を華々しく実施した本校の研究はというと、コロナのために困難を極めることとなりました。話し合い活動を活性化するために必要な向き合って学習すること、グループトークやペアトークなど飛沫感染に注意を払わなくてはならなくなりました。地域の方や講師の先生をお迎えしての授業もできなくなりました。その状況下の中、まさしく「つなぎを活性化するための手立ての構築」が課題となり、副題に掲げました。遅々としたあゆみですが、低・中・高学年グループで、全教師が研究授業を行い、自分たちで、なかまをつなぐ、未来へとつなぐ研究を進めました。伝え合い・学び合うためのアイテム「つなぎの山登り」は一からのスタートになりましたが、つなぎを駆使して意見を戦わせる場面も見られるようになりました。昼休みの後に学習タイムを設定して、基礎学力の定着も図りました。新たな学習方法を模索することは本当に難しかったですが、おりしも新学習指導要領実施の年、プログラミング学習やタブレットを活用した授業も始めました。まだ始まったばかりですが、どの学年もタブレットをもって勉強する姿を目にすると、新たな学習の息吹を感じざるを得ません。コロナと戦った一年でしたが、**学校を創れ 未そして挑**。広野小の歩みは止まっています。

さて、節分といえば2月3日でしたが、今年は、124年ぶりに節分の日が2月2日となりました。節分には、豆まきをして鬼を追い払い、福をよびこみます。季節の分かれ目の日となり、暦の上で、厳しい冬から暖かい春へと向かう日です。コロナ禍ですが、今年も必ず春がやってきます。さあ2月、学校も1年の教育活動を振り返り、暖かい春、美しい春へと向かっていきます。そして、未来へとつないで参ります。どうか、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。 校長 古谷 昭文



タブレットを使って勉強する1年生